

(様式1)

令和3年度高校の魅力化促進事業 事業報告書

学校名	岩手県立種市高等学校		
記入者職・氏名	教諭・花山 大介	電話番号	0194-65-2145

1 事業報告

(1) 事業内容

事業名	実施月日・場所	対象(人数)	実施結果
① 防災に関する講演会の実施	6月21日 本校2階演習室	2学年 14名	町の防災アドバイザーから東日本大震災時の話を聞き、防潮堤や備蓄、当時の津波の特徴等、町の設備や津波のシステムについて理解を深めた。
② 探究活動に係る地域の方々へのインタビューの実施	9月27日 10月25日 11月29日 本校2階演習室	2学年 14名	水産、福祉、多文化共生、食文化、菱刺し、防災等、生徒の探究テーマに沿った関係者に参加してもらい、関係者の視点からアドバイスをもらった。また、一緒にイベントを企画したり、関係者から紹介してもらったイベントに参加したりと、校外での活動の幅が広がった。
③ 地域の中学校への成果発表	2月25日 種市中学校	2学年 14名	中野中学校への発表は中止となった。種市中学校 2年生への発表は、ポスターセッション形式で行い、高校生の活動を中学生に周知した。また、高校生の活動に参加協力を要請した。(特に体験ブースは非常に盛り上がった)
④ 地域の小学校へ贈呈するベンチの製作	12月20日 角浜小学校	3学年7名	本校海洋開発科生徒の溶接の技術を活かして、地域の小学校から希望されたものを製作することができた。

(2) 事業費

事業名	事業費内訳						内訳
	報償費【07】	旅費【08】	需用費【10】	役務費【11】	使用料【13】	合計	
① 防災に関する講演会の実施	85,800	36,450				146,450	講師謝礼、講師旅費
② 探究活動に係る地域の方々へのインタビューの実施							講師謝礼、講師旅費
③ 地域の中学校への成果発表							24,200
④ 地域の小学校へ贈呈するベンチの製作			31,515			31,515	ベンチ材料費
計	85,800	36,450	31,515		24,200	177,965	

2 事業評価

対象	評価項目	評価※1	評価方法※2 評価理由	備考
全体	(総合評価)「期待される効果」を達成することができた。	A・B・C	地域の課題や解決方法へは関係者の協力を得つつ、十分に考えることや中学生への周知はできていたが、全員が校外でアクションを起こすところまで達成できなかった。	
生徒	(1)地域の理解を深めることができた。	A・B・C	各講話や各自の探究、フィールドワークによって、種市を様々な視点から見ることができた。	※1評価規準 A 達成できた B 概ね達成できた C 達成できなかった ※2評価方法 ・生徒の姿、学校の取組を客観的に評価すること。 ・(1)～(6)をもとに全体の評価を行うこと。
	(2)地域に興味を持った。	A・B・C	探究活動を通して、場所やものだけでなく、そこに関係する人も魅力の一つだと、再発見することができた。	
	(3)活動を通じて積極的に学ぶ姿勢、自分の役割を考える姿が見られた。	A・B・C	探究テーマに一人で取り組んだ生徒は、すべてやらざるを得ない状況だったため、積極的に活動できた。また複数で取り組んだチームの中では役割分担したが、活動を進めていく中で負担が変化し、分担を超えて協力し、探究活動を進めることができた。	
	(4)自己有用感を高めることができた。	A・B・C	授業外での活動により、様々な関係者に興味をもたれたり、感謝されたりすることで、自己有用感を高めた。 事業④に関しては、学んだ技術を活かして地域の小学校の役に立ったことで、自己有用感を高めた。	

学校	(5)市町村と連携し、取り組むことができた。	A・ <input type="checkbox"/> B・C	連携が限定的であったため、恒常的に連携が取れるように依頼し続けていく。
	(6)高校の取組を小中学校に伝えることができた。	A・ <input type="checkbox"/> B・C	4回分程、計画はしていたが、実施は1回となってしまった。オンラインでの実施も準備していかなければならない。 事業④に関しては、本校生徒の溶接の技術を町内小学校の設備の充実化に役立てることで、本校の魅力を地域に伝えることができた。

3 今年度の課題

- ・探究テーマの設定に時間がかかりすぎてしまった。来年度本格実施する現1年生はすでに始めている。
- ・校内での活動が多く、外部との連携を十分に取れなかった。次年度は魅力化協働パートナーにもお願いして、早めに生徒と外部をつなぐ。
- ・ほとんど関係者内での活動となり、外部への活動の周知が十分でなかった。SNS等を活用して周知する。
- ・準備不足で発表会が1回の実施となった。中学校だけでなく、小学校への発表の検討や、オンラインでの形態の準備をする。
- ・Note等を活用し、活動実績を外部へ発信していきたい。